

皇居ツアーと江戸城址を歩く

芳賀 雅美

2026年10月3日、台風一過の秋晴れの下今年3回目となる 東京桑野会「歴史探訪散歩の会」を実施しました。平田勝也・首藤敬勝・山本道明・藤田勝久・渡辺真佐夫・柳沼勇弥の各氏と世話人の芳賀雅美を加え7名が皇居「桔梗門」前に集合し、皇居と江戸城址および近隣をぐるりと一回り、約8kmの道程で、いにしえの日本の中枢部に迫りながら散策しました。9月中は東京では雨が続き・連続降水35日で新記録、また前日10月2日も雨が降りどうなることかと思いましたが、当日は爽やかな秋晴れとなり日差しも優しく気温もあまり上がらず、絶好の行楽日和でした。気持ち良い一日でした。

集合を皇居・桔梗門前としましたが、外国人を含む大勢の観光客で溢れ、出発予定時刻を過ぎても4人しか集まらない。場所が広すぎてやっと2人を見つけましたがもうひとり？ 電話したところ先に二重橋前広場にいることが判明し、6人は急ぎ広場に移動するハプニングがありました。

皇居ツアーの入場整理券を受け取るための行列。
開始30分でなくなった。
我々は午後の入場予定。

⇒⇒



正面奥が「桔梗門」



← 大手町の高層ビル群。
昭和の時代は9階建てまでと規制されていたが、今では40階建てのビルもある。

ハ重洲側に62階建高層ビル建設

案内人の不手際で申し訳ありません。集合場所の告知が曖昧になって、バラバラになってしまいました。ゴメンナサイ!! 予想以上に人が多かった。

整理券配布場所前で待つ3人。すぐ近くには別の2人が立っていたのに気づかず、搜索に出て発見し無事集合…と思いきや、あとひとり足りない。必ず行くと前日メールがあったのに。二重橋前広場にいたとは、とほほ。



待ちぼうけ

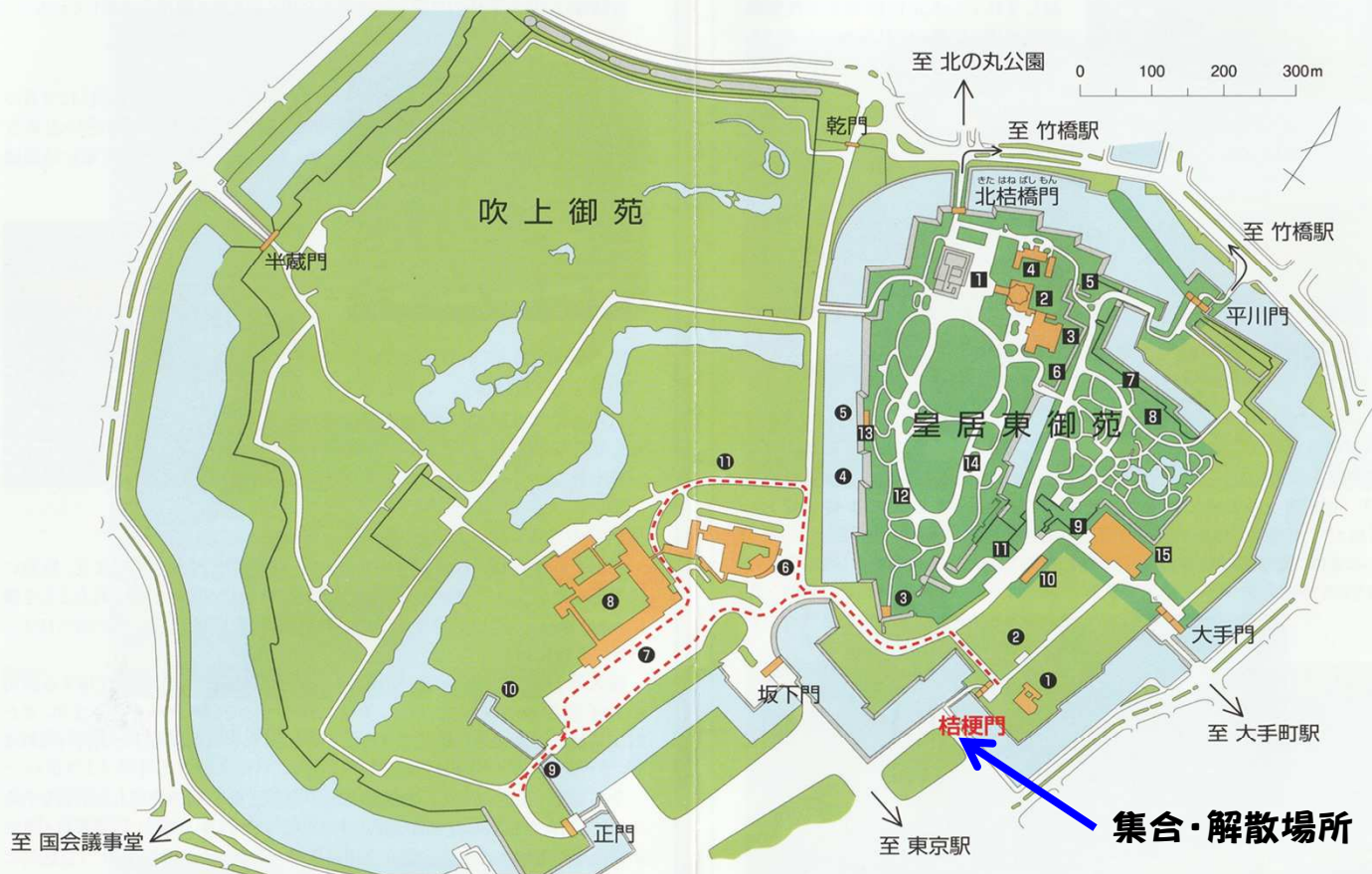


「二重橋」

皇居案内図 午前中に「東御苑」・午後に「皇居ツアー」

皇居案内図

(--- 一般参観コース) 参観所要時間は約1時間15分



1 一般参観コースから見える建物等

- | | | |
|-----------|---------|-------------|
| ① 窓明館(休所) | ⑤ 富士見多聞 | ⑨ 正門鉄橋(二重橋) |
| ② 旧枢密院庁舎 | ⑥ 宮内庁庁舎 | ⑩ 伏見櫓 |
| ③ 富士見櫓 | ⑦ 宮殿東庭 | ⑪ 山下通り |
| ④ 蓮池濠 | ⑧ 宮殿 | |

2 皇居東御苑内にある建物等

- | | | | |
|---------|----------|----------|-------------|
| ① 天守台 | ⑤ 梅林坂 | ⑨ 同心番所 | ⑬ 富士見多聞 |
| ② 桃華楽堂 | ⑥ 汐見坂 | ⑩ 百人番所 | ⑭ 江戸城天守復元模型 |
| ③ 楽部庁舎 | ⑦ 都道府県の木 | ⑪ 大番所 | ⑮ 皇居三の丸尚蔵館 |
| ④ 書陵部庁舎 | ⑧ 諏訪の茶屋 | ⑫ 松の大廊下跡 | |

このパンフレットは、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



千代田線で来て二重橋前駅で下車し、まっすぐ二重橋前の広場に到着した平田さんと合流し、みんなで記念写真をパチリ。『二重橋』とは、眼鏡状の二連になった手前の橋ではなく、奥の伏見櫓に近い方の鉄橋のことである。

正式名「正門鉄橋」という。↓↓



皇居・二重橋前広場 全員集合

お濠に沿って桜田門へ移動。内堀側の石垣と外堀側や門の土台の石垣が、積み方が違って
いるのに気付く。内堀側はやや荒々しく外堀側は面が揃
って隙間がない構造である。築年代や普請した大名の違
いが表れているようだ。桜田門と言えば、春は桜が有名。



← 桜の季節の桜田門
散歩日の桜田門 →

皇居内から門を出て、
左折すると城外へ ↓



↑↑ 満開の桜
L字型に曲がって左側
に第二門がある
桜田門は、大名が登
城する正門になってい
る。



この時間帯はまだまだ元気 ⇒

桜田門と言えばもうひとつ、井伊直弼（いい・なおすけ）暗殺の「桜田門外の変」事件現
場でもある。第二門から出て橋を渡った桜田通り沿いの橋のたもと付近で襲撃された。



桜田門外の変は、安政7年3月3日（1860年3月24日）に江戸城桜田門外で大老・井伊直
弼（彦根藩主/いい・なおすけ）が水戸脱藩浪士17名と薩摩藩士1名に暗殺された事件で、安
政の大獄などへの反発が背景となり、幕府権威を決定的に失墜させた政変。水戸藩の一橋慶
喜（よしのぶ）を退け、紀州の徳川家茂を第14代将軍に決定したことも原因のひとつ。季節
外れの大雪により、彦根藩士は合羽を着用し刀に柄袋をかけていたため即応が困難だった。
井伊直弼の墓所は、世田谷区の豪徳寺（ごうとくじ）にある。

お濠に沿って桜田通りを東進し祝田橋を渡って再度皇居外苑に入る。観光バスの駐車場を
抜けると、騎馬に乗った楠木正成像が見えてくる。皇居外苑のこの楠木正成像は、高さ4m

（台座含め約8m）の騎馬銅像で、東京三大銅像の一つとして知られている。高村光雲、山田鬼斎、石川光明、後藤貞行ら東京美術学校（現・東京藝術大学）が明治の中頃に制作した。なぜ皇居にあるのか不明？

内堀通りを北進し御幸通りとの交差点を過ぎると噴水が見えてくる。この和田倉噴水公園は今上天皇陛下のご成婚を機に完成した水と緑の豊かな公園となっている。渡辺さんが解説、『ここは「旧・会津藩の上屋敷跡地」江戸城玄関口・大手門の目の前にあるとは、幕府に優遇されていたんだなあ。』と…

楠木正成騎馬像 →

和田倉噴水公園 ↓



更に内堀通りを北進し大手門交叉点を通り過ぎて歩くと、大手町でも最も高い40階建ての「大手町Oneタワー」が右手に見えてくる。この手前に三井物産本社ビルとの谷間、平将門・首塚伝説の「将門塚」が祀られている。かつての暗いおどろおどろしい雰囲気ではなく、2016年から2020年にかけて隣接するビルの建築工事に併せて、大改修し明るく管理しやすい『将門鎮魂の場』として生まれ変わった。



将門の首が関東に帰ってきたことから「無事帰る」の「カエル」の置物が多数置いてあった。現在は撤去されている。この地は元々神田明神が祭られていた。

平将門は平安時代中期、関東で反乱を起こした（承平天慶の乱）。朝廷への謀反者として常陸国幸島村にて討ち死に、天慶3年2月14日（西暦940年3月25日）敗死。首は京都の七条河原に晒されたが、その首は何ヶ月経っても生きているかのように目を見開いて腐らず、恨みを叫び続けていた。ある日将門の首はケタケタと笑い出し、関東の方角に高く飛んでいったという。その時雷鳴と共に辺りは真っ暗になった。常陸国を目指したようだが、首はその途中で力尽き、この地に落ちたといわれている。将門の胴塚は討ち死にした地、茨城県坂東市神田山にある。「カラダ」が訛って「カンダ」に変化？ ただし将門の首塚伝説は、敗死の地「坂東市神田山」胴塚の隣のほか、「岐阜県大垣市」や、「千葉県市川市八幡」など各所に残されている。千年以上前の話であり、そもそも京都に送られた首は『偽物』だったという説もある。



京都加茂川の七条河原に首が晒された 坂東市神田山の「将門の胴塚」

予定より30分の遅れとなり、急ぎ大手門に移動した。この日は天気も良く土曜日で、江戸城址の東御苑に入る観光客が多くて荷物検査の行列が内堀通り沿いにまで延びていた（右の写真）。⇒

この大手門に渡る橋、2026年9月21日の台風25号の豪雨でお濠の水が溢れ、冠水した（右下の写真は翌22日）。22日は大手門が閉鎖となり、他の通用門から東御苑に入ることになった。こんなことは初めてである。

午後の「皇居ツアー」の集合時刻も迫り、昼食を摂る時間もあり、江戸城址は駆け足で回ることになった。ゴメンナサイ。

こんなに観光客が多いとは…トホホ!!



大手門からの入場中止（2026/9/22）



松の大廊下CG再現図

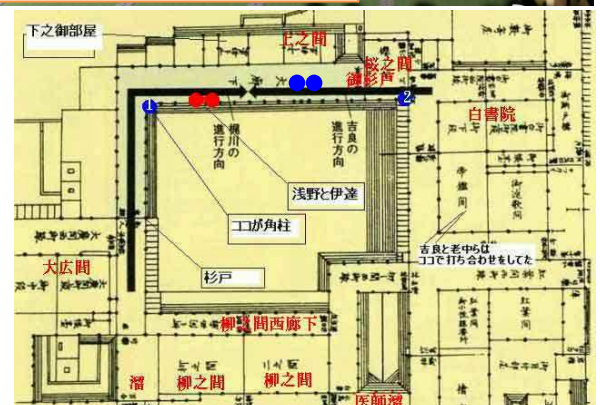


江戸城・松の大廊下跡

時は元禄14年3月14日（1701年4月12日）。勅使饗応役の浅野内匠頭長矩（ながのり）は、突如乱心して吉良上野介義央（よしひさ）を脇差で切りつけた。江戸城・刃傷事件。その現場となった江戸城・松の大廊下跡。事件を受け、内匠頭は即日切腹、

赤穂藩は改易となった。

上野介は、本所松坂町（両国）に隠居し、お咎めなし。赤穂浪士・忠臣蔵の出発点となる事件である。



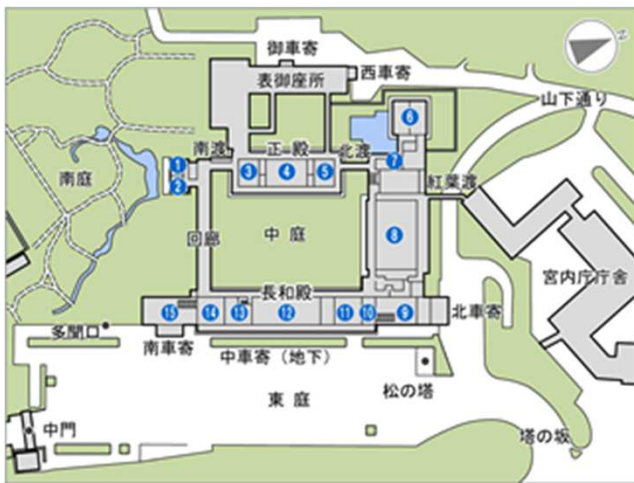
一時間で江戸城址を廻り急ぎ桔梗門へ移動。昼食タイム。
皇居ツアーの受付は13時から始まり、早速の入門。

皇居 全体図



← 地図の青線のルートがツアーの工程である。

桔梗門から入場し正面の「窓明館」で事前説明、本日の入館者は500名？ 日本語の他、英語・仏語・中国語・韓国語でスクリーンのプレゼンを見ながら宮内庁職員の説明があった。土産物店もあり、早速キーホルダーや根付を買う散歩会のメンバーも… 13:30過ぎから説明の言語毎にグループとなって出発した。意外や日本語の（日本人の）多いことか。宮内庁の庁舎がこんなところにある。⇒



- | | | | |
|---------|---------|--------|--------|
| ① 千草の間 | ⑤ 正殿梅の間 | ⑨ 北溜 | ⑬ 松風の間 |
| ② 千鳥の間 | ⑥ 連翠 | ⑩ 北の間 | ⑭ 波の間 |
| ③ 正殿竹の間 | ⑦ 泉の間 | ⑪ 石橋の間 | ⑮ 南溜 |
| ④ 正殿松の間 | ⑧ 豊明殿 | ⑫ 春秋の間 | |



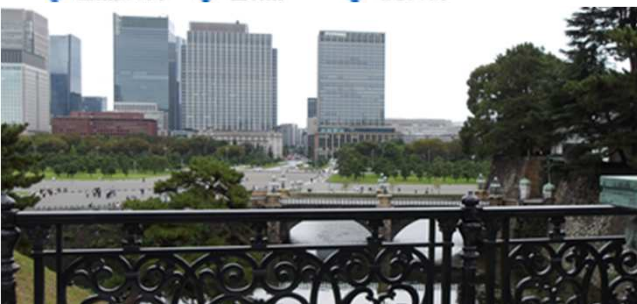
宮内庁・庁舎



宮殿・長和殿



← 二重橋を渡りながら、日比谷方面「二重橋広場」を見下ろす（右側が皇居正門）



散歩も終盤、ふたつの櫓閣「伏見櫓」（左）
と「富士見櫓」（右） ⇒ ⇒
14：40にツアーが終了した。



15時ちょうどに最後の集合写真を撮影
← 桔梗門前

たいへんお疲れ様でした

年寄りにはちょっと堪える **8.2km** の工程でした。次回は、2027年3月末桜の咲く頃に
皆さんお会いしましょう。

